S.Naka

THE AOI STAKES　第7回 葵ステークス（GⅢ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	41,000,000円	16,000,000円	10,000,000円	6,200,000円	4,100,000円
付加賞	630,000円	180,000円	90,000円		

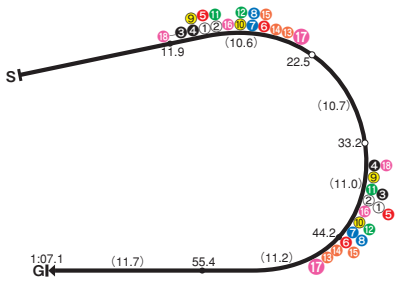
レース映像はコチラでご覧いただけます。

3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　馬齢重量

2024.5.25　京都　晴・良　芝1200ﾒｰﾄﾙ　(国際)(特指)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム(着差)	コーナー通過順位	上り(600ﾒｰﾄﾙ)	馬体重(増減)	単勝オッズ	調教師	ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ
1	⑰	ピューロマジック	牝3	55	横山和生	1:07.1	1-1	33.9	446(－4)	24.1⑧	安田翔伍(栗東)	106
2	⑬	ペアポルックス	牡3	57	松若風馬	1¼	2-2	33.9	474(－2)	16.6⑦	梅田智之(栗東)	106
3	⑭	ナナオ	牝3	55	和田竜二	ハナ	3-3	33.8	436(+14)	12.3⑥	小栗　実(栗東)	102
4	⑩	エトヴプレ	牝3	55	藤岡佑介	1	8-8	33.6	462(+4)	2.9①	藤岡健一(栗東)	99
5	⑫	シカゴスティング	牝3	55	西村淳也	ハナ	8-8	33.6	428(－6)	36.5⑫	庄野靖志(栗東)	
6	①	ナムラアトム	牡3	57	浜中　俊	クビ	13-11	33.4	488(+4)	7.6③	長谷川浩大(栗東)	
7	⑨	アウェイキング	牡3	57	菱田裕二	¾	15-16	33.3	488(－4)	25.4⑩	矢作芳人(栗東)	
8	⑪	エポックヴィーナス	牝3	55	酒井　学	クビ	11-14	33.6	436(－4)	58.9⑯	新谷功一(栗東)	
9	③	ガロンヌ	牡3	57	池添謙一	クビ	17-14	33.4	468(±0)	8.0④	上村洋行(栗東)	
10	⑥	オーキッドロマンス	牡3	57	内田博幸	¾	4-4	34.3	484(+2)	6.6②	手塚貴久(美浦)	
11	⑤	アスクワンタイム	牡3	57	岩田望来	ハナ	13-11	33.9	452(±0)	33.7⑪	梅田智之(栗東)	
12	⑱	カルチャーデイ	牝3	55	武　豊	ｱﾀﾏ	18-17	33.1	400(－10)	40.3⑬	四位洋文(栗東)	
13	⑯	エリカカリーナ	牝3	55	鮫島克駿	ｱﾀﾏ	10-10	33.9	432(+8)	12.1⑤	宮田敬介(美浦)	
14	④	ニコラウス	牡3	57	荻野　極	クビ	15-17	33.5	436(－4)	68.6⑰	上原佑紀(美浦)	
15	②	モンシュマン	牡3	57	松山弘平	クビ	11-11	33.9	458(－10)	24.5⑨	上村洋行(栗東)	
16	⑧	モズトキキ	牝3	55	亀田温心	¾	6-6	34.3	548(+10)	46.5⑭	村山　明(栗東)	
17	⑮	クリスアーサー	牡3	57	幸　英明	1½	4-4	34.8	514(+10)	54.2⑮	渡辺薫彦(栗東)	
18	⑦	ジョーローリット	牝3	55	柴田裕一郎	1½	6-6	34.8	478(±0)	150.0⑱	中竹和也(栗東)	

単勝⑰2,410円(8ﾍﾝ)　複勝⑰720円(9ﾍﾝ)　⑬500円(7ﾍﾝ)　⑭430円(6ﾍﾝ)　枠連⑦-⑧1,530円(6ﾍﾝ)
馬連⑬-⑰16,870円(52ﾍﾝ)　ワイド⑬-⑰4,830円(52ﾍﾝ)　⑭-⑰3,850円(43ﾍﾝ)　⑬-⑭3,210円(35ﾍﾝ)
馬単⑰-⑬35,860円(109ﾍﾝ)　3連複⑬-⑭-⑰58,860円(172ﾍﾝ)　3連単⑰-⑬-⑭362,410円(978ﾍﾝ)



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 33.2 - 800ﾒｰﾄﾙ 44.2 - 1000ﾒｰﾄﾙ 55.4　上り：800ﾒｰﾄﾙ 44.6 - 600ﾒｰﾄﾙ 33.9

アラカルト

- 横山和生騎手は葵S初勝利。ＪＲＡ重賞は本年2勝目、通算16勝目
- 安田翔伍調教師は葵S初勝利。ＪＲＡ重賞は本年2勝目、通算9勝目
- アジアエクスプレス産駒はＪＲＡ重賞初勝利
- 牝馬の勝利は23年モズメイメイに続く通算5回目
- ピューロマジックの馬体重446*ﾛは21年レイハリアに並ぶ本競走優勝馬の最少馬体重タイ記録
- 非当選馬　5頭(アラララ、キャプテンネキ、ジャスパーノワール、スピリットガイド、ロードフォアエース)

ピューロマジック *Puro Magic*

牝　鹿毛　2021.2.18生
北海道新冠町　村田牧場生産
馬主・㈱スリーエイチレーシング　栗東・安田翔伍厩舎
馬名意味・聖なる、純粋な(西)＋可能にすること

カスパースカイゴールドCAN系　F20

アジアエクスプレスUSA Asia Express 栗毛　2011	Henny Hughes 栗毛　2003	Hennessy
		Meadow Flyer
	Running Bobcats 鹿毛　2002	Running Stag
		Backatem
メジェルダ 鹿毛　2013	ディープインパクト 鹿毛　2002	サンデーサイレンスUSA
		ウインドインハーヘアIRE
	メリュジーヌ 鹿毛　2006	フレンチデピュティUSA
		メジェール

5代までのインブリード：Storm Cat S4×M5　Deputy Minister M4×S5
Hold Your Peace S5×M5

INTERVIEW

村田康彰専務(村田牧場)

皮膚感がとてもよく筋肉質な体形でした

競馬場まで応援に行き、表彰式にも参加することができ嬉しく思っています。この一族の特長である速いスタートを決め、逃げながら後続との差を広げていくというこの馬らしい競馬をしてくれました。テンションが少し高めですが、皮膚感がとてもよく筋肉質な体形で、１歳夏のセリでは高い評価をいただきました。今後の楽しみが広がります。

父アジアエクスプレスUSA

中央、地方12戦４勝(朝日杯フューチュリティSG1、レパードSG3、スプリングSG2２着、アンタレスSG3２着、名古屋大賞典JpnⅢ２着)、最優秀２歳牡馬、17年から供用

〔代表産駒〕**ピューロマジック**(本馬)、**ソロユニット**(エーデルワイス賞JpnⅢ)、**ワールドタキオン**(福島民友C・L)、メディーヴァル(後出)、タツノエクスプレス(東京湾C)、グラッシーズマン(若武者賞)、オーシンロクゼロ(菊水賞)、パッションクライ(サンライズC)、ガリバーストーム(園田ジュニアC)

母メジェルダ

北海道新冠町　村田牧場生産　中央11戦１勝(ファンタジーSG3２着)

メディーヴァル(18 牡父アジアエクスプレスUSA)中央34戦４勝(韋駄天SOP) ㊐

バグラダス(20 牡父マジェスティックウォリアーUSA)中央13戦３勝 ㊐

ピューロマジック 本馬(21 牝父アジアエクスプレスUSA)中央８戦３勝(葵S3、マーガレットS・L２着) 獲得総賞金68,766,000円

(22 牝父ミスターメロディUSA)

(24 牝父レイデオロ)

※19(前年種付せず)、23(流産)

祖母メリュジーヌ

北海道新冠町　村田牧場生産　中央３勝。22年用途変更

メリオール(12 牝父キングカメハメハ)地方０勝、**メルテッドハニー**(マーガレットS・L２着)、タイセイブリリオ ㊐(知多特別、合馬特別)の母

メジェルダ(13 前出)

ストレルカ(16 牡父ヘニーヒューズUSA)中央１勝

曾祖母メジェール

北海道新冠町　村田牧場生産　中央５勝(天王山特別、白鳥大橋特別)、10年死亡

メリュジーヌ(06 前出)

クロワラモー(07 牝父スペシャルウィーク)中央３勝(宇治川特別、奥只見特別)

母の父ディープインパクト

北海道早来産　中央、仏12勝(ジャパンCG1、日本ダービーG1、皐月賞G1、菊花賞G1、天皇賞(春)G1、有馬記念G1、宝塚記念G1)

〔BMS代表産駒〕**キセキ**(菊花賞G1、父ルーラーシップ)、**ジェラルディーナ**(エリザベス女王杯G1、父モーリス)、**ブレイディヴェーグ**(エリザベス女王杯G1、父ロードカナロア)、**ドルチェモア**(朝日杯フューチュリティSG1、父ルーラーシップ)、**ライトウォーリア**(川崎記念JpnⅠ、父マジェスティックウォリアーUSA)

S.Katsura

非凡な〝初速〟を印象付け重賞初制覇

２０１８年の重賞昇格以降、年々、存在感を高めてきた３歳のスプリント重賞・葵Sには今年も多彩な顔触れが集結。フィリーズレビューを好タイムで逃げ切り、折り合いに苦労した桜花賞でも５着に食い下がったエトヴプレが頭ひとつ抜けた支持を集め、ファルコンSの２着馬オーキッドロマンス、ナムラクレアの半弟にあたるナムラアトムがこれに続いた。しかし上位人気馬は揃って敗れ、レースは波乱の決着に。その立役者となったのは８番人気の伏兵ピューロマジックだった。

逃げの戦法で実績を重ねてきた快足馬がズラリと揃い、注目された主導権争い。とはいえ、17番枠から抜群のダッシュで飛び出したピューロマジックと横山和生騎手のコンビは、同型馬に競り込む隙を与えずに先手を奪い、単騎の逃げに持ち込む。オーキッドロマンスは手綱を押しながら好位勢の内を追走。立ち遅れ気味のスタートを切ったエトヴプレは中団、ナムラアトムは後方で逆襲の機会を窺った。

まずまず速いラップ(前半600㍍の通過は33秒2)を刻みながらも、十分な手応えで４コーナーを回った横山騎手は、直線に向いてひと呼吸置いてからスパート。２番手から並びかけてきたペアポルックスを突き放し、早々に盤石の態勢を築く。差しに構えた面々の末脚は不発に終わり、結果的には先行した３頭が１～３着を占めたなか、ラスト１ハロも11秒台のラップでまとめたピューロマジックが危なげのないフィニッシュを決めた。

ダートの活躍馬が多いアジアエクスプレスの産駒とはいえ、ファンタジーS２着のメジェルダを母に持つ本馬の素質は芝の舞台で大きく開花。昨年９月、札幌・芝１２００㍍の未勝利戦を10馬身差で圧勝して頭角を現し、その後も逃げの戦法を貫いて実績を積み上げてきた。前走のマーガレットSはぬかるんだ馬場(重)に脚を取られて２着に敗れたが、好天に恵まれたこの日は本領を発揮。身上のスピードとともに非凡な〝初速〟も印象付け、父に初のJRA重賞制覇をプレゼントした。